

平成 28 年 5 月 25 日

東京都立産業技術高等専門学校長 殿

平成 27 年度特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	電気電子工学コース	職	准教授	氏名	石崎明男
研究分担者	所属	一般科	職	教授	氏名	高野光男
	所属	電気電子工学コース	職	教授	氏名	山本哲也
	所属	電気電子工学コース	職	教授	氏名	小林弘幸
	所属	電子情報工学コース	職	准教授	氏名	栴沢栄基
研究課題名	(和文) デザイン思考アプローチによる ED 教材の評価					
	(英文) Evaluation of learning materials for engineering design course based on design thinking					
研究種目	教育課題研究					
研究実績の概要						
<p>1. 開発した教材を用いた試行授業の概要</p> <p>(ア) 受講者17名（電気11名、電子4名、生産2名、全員3年生）</p> <p>(イ) 12月5、12、19日、3月9、12、16日：合計18-21時間 (12月は基礎学習期間、16日の発表会参加者は38名)</p> <p>(ウ) 課題</p> <p>① 放置自転車の対策と活用（富士通さまより）</p> <p>② スカイツリーの来客数を増やすには（東武タワースカイツリーさまより）</p> <p>2. 教材の評価結果（受講者の振り返りシートから読み取れること）</p> <p>(ア) 5項目についてチームへの評価と自身への評価を行った。平均値では、全項目でチームの方が個人より評価が高かった。この教材は協働を促せるといえよう。</p> <p>(イ) この授業にとって重要な行動・マインドとして「心の開放・共感・傾聴・協働」を指摘する受講者が多かった。このことより、本教材は創造と社会性を促せるといえよう。</p> <p>(ウ) 受講者は、他者からのポジティブな評価を受けた時に、達成・充実を感じている。よって、他者との関係性と有能感を刺激することで、より動機づけられることが分かった。</p> <p>3. 課題</p> <p>(ア) 場作りのできるファシリテータの育成。</p> <p>(イ) デザイン思考を実演できるファシリテータの育成。</p>						
研究発表（論文、著書、講演等）						
H28 年度に報告会を実施予定である。						
その他（教育活動・OPC への貢献、特許等）						
電気電子工学コース、電子情報工学コースの実験実習において、デザイン思考の授業が実施されている。前者では、180 分×6 回の授業を 43 名に対して実施した。						